

【児童への話】

6月は「ふれあい月間」です。一日ひとつ成長しようと頑張っている落五の皆さんは、普段から友達や先生と仲良く過ごしていると思いますが、中には、友達関係で心配なことがあったり、先生に自分の思いがうまく伝えられずに悩んだりしている人がいるかもしれません。校長先生の大好きな落五の子には、いじめを絶対にしないこと、悩みはすぐに相談することを心がけ、気持ちよく学校生活を送ってほしいと思っています。ふれあい月間は、悩みのアンケートや相談の期間です。しっかり考える時間をとってください。

さて今日は、皆さんがお友だちや先生たちとよりよい関係を築けるように、「正直であること 人を思いやる心」について、お話しします。

校長先生が担任の先生だった時のことです。Aさんが友だちに「だれだれさんがあなたの悪口を言っていたよ」と話しました。その友だちは、とても辛く悲しい気持ちになりました。先生はその話を聞いて、Aさんに「どうして、悪口を言われていることを伝えたの?」と尋ねました。Aさんは、「本当に悪口を言われていたから、正直に教えてあげようと思って」と言いました。

Aさんはきっと、本当に、正直であろうと思い、伝えたのでしょう。でもそのことで、友だちが辛く悲しい気持ちになったことも事実です。先生はそのとき、「正直であること」と「人を思いやる心」についてのお話を思い出しました。こんな話です。

昔、中国に、孔子（こうし）というとても賢い人がいました。

ある人が孔子に言いました。「私の村にはとても正直な息子がいます。自分の父親が羊を盗んだとき、その息子は、自分の父親が泥棒だと警察に正直に申し出たのです。」

孔子は答えました。「私の村の正直というのは、それとは違います。息子は父親の罪をかばい、父親は息子の罪をかばいます。本当の正直というのは、人を思いやる心の中にあるものですよ。」

このお話にはいろいろな考え方があると思いますが、校長先生は、自分が人に何かをしようとするとき、その人にとって嬉しい、気持ちいい、幸せになることであることが必要で、さらに、その後どうなるか、ということまで考えることが大切だと思っています。落五の皆さん全員が、一日ひとつ人のためになることをして、明るく思いやりのある人になってください。

今日は「正直であること 人を思いやる心」についてお話ししました。

【本講話について】

6月の始まりに、少し長めの朝礼講話をしました。小さな社会である学校の中では、子どもの人間関係が絡み合い、思い通りにならないことがたくさん起こります。ふれあい月間は、子どもの人間関係を正しく把握して効果的な指導を行うとともに、良好な人間関係を築く術を子どもたちに身に付けさせていくためのものです。

落五小は全教育活動を通じて、子どもたちの心を耕し、教育目標である「明るく思いやりのある子」の育成を実現させていきます。ご家庭でもこの機会に、学校でのことをお子さんとたくさん話していただき、毎日明るく登校できるような声かけをしてくださいますよう、お願いします。